

# KSKQ どかどか No.282

にゅーす

# ぽぽんがぽん News

笑顔あふれ つながりあえる社会へ

～ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために～



## ねんど ねんどはじめ むかえる 2020年度 年度初めを迎えるにあたり

ぽぽんがぽんでは、2013年10月より放課後等デイサービスPlusを運営してまいりましたが、これまでの収支状況、社会資源や地域ニーズの変容、地震に伴う事業場移設の影響等、総合的に勘案した結果、2020年3月末をもちまして事業廃止をいたしましたこと、ご報告いたします。大池の一軒家にて事業を開始し、2018年6月の大阪北部地震により事業場が半壊し、駅前事務所への緊急的な事業場移設を行い、今日に至るまでの間、多くの関係の皆様には、さまざまな場面にてお力添えいただけてきましたこと、改めてお礼申し上げます。また、多くのご期待の声にお応えしきれなかったことに、深くお詫び申し上げます。福祉サービス事業としては一つの区切りとなりますが、障がい児やそのご家族のニーズや社会状況には引き続き関心を寄せながら、取り組みを模索していきます。

2019年度は、ぽぽんがぽんで20年前から実践してきた重度知的障がいのある方の1人暮らし支援がNHKに取り上げられました。また、映画「道草」が全国各地で上映されており、注目を集め始めています。ぽぽんがぽんの取り組みも注目され、神奈川県や愛知県などからも取り組みの話をお聞きしたいと、ご来訪いただいたり、他市の支援者研修での登壇依頼などがきました。これまでの実践のお話はできても、それがこれから再現できるのか?となると、多くの課題があることも浮き彫りになります。諸制度が整備された中で、支援が「既定」的にな

っていることが、自分も含め支援者、事業所の「型破り」の壁となってしまうようにも感じます。この「壁」を越えていくために、何をしたいのかアイデアを出し合いながら、取り組みを始めていきたいと考えています。何卒、お力添えをお願いいたします。

し む きょくちょう みずのまさかず  
(事務局 長 水野昌和)

- 1頁 2020年度初めを迎えるにあたり
- 2頁 立命館大学道草上映会「重度知的障害者と  
呼ばれるひとたちと 仲間の実践から」
- 3頁 茨木市子ども・若者支援フォーラムの報告
- 4頁 各場(事業)から・スタッフ紹介
- 5頁 ろくちゃんまちをゆく
- 6頁 後援会つながりの会ぽぽんがぽんより
- 7頁 お願いと寄付金のお礼
- 8頁 編集後記

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

『「<sup>ちい</sup>地<sup>き</sup>域<sup>く</sup>で暮<sup>らす</sup>」を知る、考える、広<sup>げる</sup>げる  
<sup>じゅうどちてきしやうがい</sup>重度知的障<sup>害</sup>と呼ば<sup>れる</sup>る人<sup>たち</sup>と <sup>なかま</sup>仲<sup>間の</sup>実<sup>践</sup>から』

ぼぼんがぼん<sup>りじ</sup>理事<sup>のおたごろう</sup>の太田吾郎さんが、12/21(土)<sup>ど</sup>立<sup>りつめい</sup>命<sup>かんだい</sup>館<sup>がく</sup>大学<sup>かいさい</sup>で開<sup>催</sup>された『「地<sup>ちい</sup>域<sup>く</sup>で暮<sup>らす</sup>」を知る、  
 考<sup>かんが</sup>える、広<sup>ひろ</sup>げる 重<sup>じゅうどちてきしやうがい</sup>度<sup>よ</sup>知的障<sup>害</sup>と呼ば<sup>れる</sup>る人<sup>たち</sup>と 仲<sup>なかま</sup>間の<sup>じっせん</sup>実<sup>践</sup>から』にパネリストの1人として登<sup>とうだん</sup>壇<sup>ひとり</sup>  
 しました。今<sup>こんかい</sup>回は<sup>とき</sup>その<sup>ほか</sup>時の<sup>とうだんしゅ</sup>他の<sup>とうだん</sup>登<sup>壇</sup>者<sup>から</sup>からコメ<sup>ン</sup>ト<sup>を</sup>を<sup>いた</sup>だ<sup>き</sup>ま<sup>し</sup>た。

ぼぼんがぼんの取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>みとして重<sup>じゅうど</sup>度の<sup>ちてきしやうがい</sup>知的障<sup>害</sup>者<sup>しえん</sup>の支<sup>なか</sup>援<sup>なか</sup>の中<sup>どうし</sup>でヘル<sup>はな</sup>パー<sup>あ</sup>同<sup>なんど</sup>士<sup>も</sup>が話<sup>か</sup>し合<sup>あ</sup>い<sup>を</sup>を何<sup>なんど</sup>度も  
 重<sup>かさ</sup>ね<sup>な</sup>が<sup>すす</sup>ら<sup>ず</sup>進<sup>すす</sup>めて<sup>きた</sup>。そ<sup>う</sup>い<sup>っ</sup>た<sup>こ</sup>と<sup>は</sup>、J<sup>ジェイアイシエル</sup>C<sup>チ</sup>I<sup>チ</sup>L<sup>チ</sup>で<sup>の</sup>知<sup>ちてきしやうがい</sup>的<sup>しえん</sup>障<sup>害</sup>者<sup>の</sup>の自<sup>じりつせい</sup>立<sup>かつ</sup>生<sup>し</sup>活<sup>すす</sup>へ<sup>の</sup>の支<sup>しえん</sup>援<sup>すす</sup>を<sup>すす</sup>め<sup>て</sup>  
 い<sup>く</sup>中<sup>なか</sup>で同<sup>おな</sup>じ<sup>な</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>こ</sup>と<sup>を</sup>を<sup>し</sup>て、同<sup>おな</sup>じ<sup>な</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>が<sup>ら</sup>来<sup>こ</sup>ら<sup>れ</sup>て<sup>き</sup>た<sup>の</sup>だ<sup>らう</sup>と<sup>お</sup>も<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た。  
 ジェイアイシエル こいずみひろこ  
 J C I L 小泉浩子



太<sup>おた</sup>田<sup>はなし</sup>さん<sup>の</sup>の<sup>さいしょ</sup>お<sup>わたし</sup>話<sup>はなし</sup>で、最<sup>が</sup>初<sup>ほうもん</sup>に<sup>とき</sup>私<sup>とき</sup>がド<sup>りよう</sup>キ<sup>しゃ</sup>ッ<sup>オウ</sup>と<sup>ひとり</sup>した<sup>ぐ</sup>のは、9<sup>に</sup>月<sup>に</sup>訪<sup>ほうもん</sup>問<sup>とき</sup>した<sup>の</sup>時<sup>こと</sup>の<sup>こと</sup>。利<sup>り</sup>用<sup>りよう</sup>者<sup>しゃ</sup>0<sup>オウ</sup>さん<sup>ひとり</sup>の<sup>ぐ</sup>1<sup>ひとり</sup>人<sup>ひとり</sup>暮<sup>ひとり</sup>ら<sup>ぐ</sup>  
 し開<sup>かい</sup>始<sup>じ</sup>時<sup>とき</sup>、介<sup>かい</sup>助<sup>じ</sup>者<sup>しや</sup>を<sup>よく</sup>噛<sup>か</sup>んだ<sup>という</sup>話<sup>はなし</sup>し<sup>を</sup>を<sup>され</sup>た<sup>とき</sup>に、私<sup>わたし</sup>が<sup>その</sup>時<sup>とき</sup>に自<sup>じりつせい</sup>立<sup>かつ</sup>生<sup>し</sup>活<sup>いこう</sup>へ<sup>の</sup>の移<sup>ま</sup>行<sup>ま</sup>に<sup>迷</sup>い<sup>は</sup>な<sup>な</sup>か<sup>ま</sup>  
 った<sup>か</sup>、お<sup>き</sup>聞<sup>き</sup>きたら「本<sup>ほん</sup>人<sup>にん</sup>にと<sup>つ</sup>つて<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と<sup>う</sup>よ<sup>り</sup>は、少<sup>すく</sup>な<sup>く</sup>とも<sup>も</sup>施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>や<sup>グ</sup>ル<sup>ー</sup>プ<sup>ホ</sup>ム<sup>より</sup>も  
 自<sup>じりつせい</sup>立<sup>かつ</sup>生<sup>し</sup>活<sup>いこう</sup>と<sup>いう</sup>の<sup>が</sup>一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>ノ<sup>ー</sup>マ<sup>ル</sup>な<sup>か</sup>た<sup>ち</sup>か<sup>な</sup>、と<sup>い</sup>う<sup>と</sup>こ<sup>ろ</sup>で<sup>す</sup>よ<sup>ね</sup>」と<sup>お</sup>っ<sup>し</sup>ゃ<sup>つ</sup>た<sup>と</sup>き<sup>で</sup>した。  
 あ<sup>あ</sup>、そ<sup>う</sup>だ<sup>よ</sup>ね、本<sup>ほん</sup>人<sup>にん</sup>にと<sup>つ</sup>つて<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と<sup>う</sup>の<sup>は</sup>す<sup>ぐ</sup>に<sup>は</sup>わ<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>い。目<sup>め</sup>の<sup>ま</sup>え<sup>げん</sup>の<sup>しやう</sup>現<sup>な</sup>象<sup>な</sup>に<sup>流</sup>さ<sup>れ</sup>る<sup>ん</sup>じ<sup>や</sup>  
 な<sup>く</sup>て、求<sup>もと</sup>め<sup>る</sup>形<sup>かたち</sup>を<sup>見</sup>据<sup>み</sup>え<sup>て</sup>あ<sup>る</sup>べき<sup>すがた</sup>姿<sup>む</sup>に<sup>向</sup>か<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>く。も<sup>の</sup>す<sup>ご</sup>く<sup>な</sup>つ<sup>と</sup>く<sup>な</sup>納<sup>ひ</sup>得<sup>こと</sup>さ<sup>せ</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>一</sup>言<sup>こと</sup>で<sup>した</sup>。  
 次<sup>つぎ</sup>は12<sup>がつ</sup>月<sup>とき</sup>の<sup>はたら</sup>シ<sup>あ</sup>ン<sup>お</sup>ポ<sup>も</sup>の<sup>こと</sup>時<sup>こと</sup>。働<sup>はたら</sup>く<sup>こと</sup>は<sup>悪</sup>だ<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>た</sup>、と<sup>い</sup>う<sup>言</sup>葉<sup>ことば</sup>に、資<sup>し</sup>本<sup>ほん</sup>主<sup>しゆ</sup>義<sup>ぎ</sup>の<sup>はぐる</sup>歯<sup>ま</sup>車<sup>はぐるま</sup>に<sup>な</sup>る<sup>こ</sup>と、  
 搾<sup>さく</sup>取<sup>しゅ</sup>す<sup>る</sup>側<sup>がわ</sup>に<sup>な</sup>る<sup>こ</sup>とに<sup>てい</sup>抗<sup>こう</sup>す<sup>る</sup>太<sup>おた</sup>田<sup>た</sup>さん<sup>の</sup>の<sup>た</sup>立<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>位置<sup>ち</sup>が<sup>み</sup>え<sup>て</sup>、な<sup>ん</sup>だ<sup>か</sup>と<sup>も</sup>す<sup>が</sup>す<sup>が</sup>しく<sup>お</sup>も<sup>え</sup>ま<sup>し</sup>  
 た。同<sup>どう</sup>時<sup>じ</sup>に<sup>お</sup>や<sup>ぎ</sup>を<sup>や</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>身<sup>み</sup>と<sup>して</sup>は、高<sup>こう</sup>校<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>ぐ<sup>ら</sup>い<sup>で</sup>そ<sup>ん</sup>な<sup>かん</sup>感<sup>こ</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>こ</sup>ども<sup>も</sup>つ<sup>て</sup>親<sup>おや</sup>は<sup>たい</sup>大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>だ<sup>つ</sup>た<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>  
 (ご<sup>め</sup>ん<sup>な</sup>さい、太<sup>おた</sup>田<sup>た</sup>さん!)<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>ち</sup>ゃ<sup>つ</sup>つ<sup>た</sup>り。い<sup>ず</sup>れ<sup>に</sup>し<sup>て</sup>も、ユ<sup>こ</sup>ニ<sup>く</sup>な<sup>な</sup>高<sup>こう</sup>校<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>だ<sup>つ</sup>た<sup>ん</sup>だ<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>  
 な。そ<sup>の</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>あ</sup>会<sup>あ</sup>っ<sup>て</sup>た<sup>ら</sup>ど<sup>ん</sup>な<sup>かん</sup>感<sup>こ</sup>じ<sup>だ</sup>つ<sup>た</sup>ん<sup>だ</sup>ら<sup>う</sup>と<sup>お</sup>も<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た。  
 と<sup>い</sup>う<sup>わ</sup>け<sup>で</sup>魅<sup>み</sup>力<sup>りよく</sup>的<sup>てき</sup>な<sup>お</sup>太<sup>おた</sup>田<sup>た</sup>さん<sup>に</sup>、昨<sup>さく</sup>年<sup>ねん</sup>お<sup>あ</sup>い<sup>わ</sup>す<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>でき</sup>、私<sup>わたし</sup>は<sup>しあ</sup>幸<sup>あ</sup>せ<sup>者</sup>者<sup>です</sup>。

とうきょうかせいだいがく たなか えみ こ  
 東 京 家 政 大 学 田 中 恵 美 子

いばらきしこども わかものしえん しえん かんがえて  
 茨木市子ども・若者支援フォーラムで「支援」について考えてきました。



ぼぽんがぼん通信をご覧の皆さま、こんにちは。子ども・若者自立支援センター「くろす」の管理者の竹中です。

先日（1月20日）開催された茨木市子ども・若者支援フォーラムの意見交換に参加してきましたので、この場で報告させていただきます。よろしくお願い致します。

今回は、日本福祉大学の名誉教授である竹中哲夫先生をお招きし、子ども・若者の問題だけでなく、中高年のひきこもりの方の支援についても話し合いを行ってきました。

さて、皆さんお気づきですか？この原稿を書いている私は竹中です。今回、フォーラムに来て下さったのも竹中先生です。告白します！実は私たちは親子でした！・・・なんてことはなく、ただの偶然です。しかし、偶然名前が一緒だったというだけではなく、私たちが「やってきたこと」も実は同じようなことだったのです。

それは「人を支援することはどういうことか？」ということを考え、支援の現場で実践し、方法をまとめながら多くの人に知ってもらうために発信を続けてきたということです。今回のフォーラムは「子ども・若者支援フォーラム」という名前がついていますが、実は「ひきこもり」というテーマから「全ての人のための支援」を考えるための集まりでもあったのです。

皆さんは「支援」ってどんなことだと思いますか？ぼぽんがぼん通信の読者の方は「支援の仕事をしたことがあるよ」という方も多いかもしれませんね。「支援のことはよく分からないけど家族や友達を助けたことはあるよ」という方もおられるでしょう。人は生きていれば、誰かを支援したり誰かに支援されたりするものです。私たち人間にとっては「支援」って実は身近なものだったりするんですよ。そんな「支援」について「くろす」ではこんな風に考えています。それは「誰かの成長に貢献すること」です。

生きていくと色々なことに失敗したり成功したりしますよね。「失敗するのが怖いから成功したくない。普通が良い。」なんてことを考える人もいるかもしれません。でも、失敗の無い人生を自指していくのもなかなか難しいと思います。「悩み」や「困り」ってそんなところから生まれることが多いのです。だから悩んでいる人や困っている人を支援する時は、人生に「失敗」が付き物だということを知った上で、「失敗」を「成長」に活かしていく必要があるということです。もし失敗しても、そこから学べるのであれば「次」に活かしていくことができます。

「支援をする人」は、「支援の専門家」や「ボランティア」など色々な立場の人がいますが、立場に関係なく誰かの成長のために動くことができた時には、お互いに成長することができます。支援する、支援される、といった垣根を越えて、互いに成長する機会を「支援」と捉えることが大事だと「くろす」では考えています。

竹中先生はフォーラムの中で、何らかのきっかけで事態が好転することを「幸運な偶然」という言葉で表現されていました。それは支援者の「出会い」も含まれます。では、そんな「幸運な出会い」を早く起こしていくためにできることって皆さんは何だと思いますか？もし思いついたらぜひ教えてくださいね。もちろん、「くろす」でも「幸運な出会い」を早めるために日々考えていますので、これから様々な場所でお伝えしていきたいと考えています。今回のフォーラムのような機会もまた作っていきたくて考えていますので、もし興味があれば参加してみてくださいね。

皆さんとの「幸運な出会い」を楽しみにしています。

（竹中辰也）

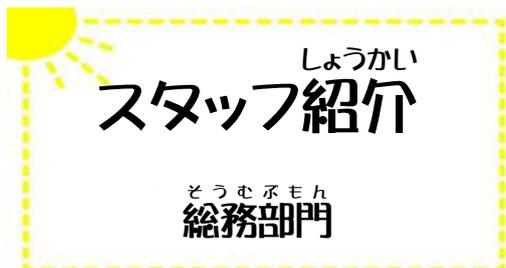


今回は「社会福祉法人ぽぽんがぽんの総務部門」について紹介をさせていただきます。総務部門とは、ぽぽんがぽんにかかわるすべて「人」「物」「金」を管理する部門です。実際には「何でも屋さん」ですので、毎日パソコンをカタカタ打ちながら、電話対応をしつつ、複数の仕事を掛け持ちしながら事務所内や各場を走り回っています。

利用者さんと直接関わることはあまりありませんし、職員さんと顔を合わせることも数少ないのですが、いろいろなことを知っている不思議なところですよ。

ぽぽんがぽんが任意団体からNPO法人へ、そして社会福祉法人へと規模が大きくなるにつれ、関わる「人」「物」「金」もどんどん増えていきます。そのため一人一人の担う仕事の幅は広く、日々コツコツと少しでも作業を効率よく、といった時間との戦いを続けています。また総務以外の職員さんや利用者さん、ご家族のみなさまにも協力いただくことで成り立つことも多いため、皆様には心より感謝しています。

これからも法人の裏方として、適切な縁の下の力持ちになれるようがんばっていきたくて考えておりますので今後ともご支援よろしくお祈いします。(総務部門 小松義典)



こんにちは。総務部門で主にヘルパー派遣の事務をさせていただきます。お待ちしております。まつい ゆみこ

ぽぽんがぽんでお仕事を始めた時に小学生だった下の子ども、春には社会人3年目を迎え、子育ても一段落して、今は大好きな食べ歩きや温泉、神社仏閣巡りや小旅行を楽しんでいます。携帯の中の写真は、ほぼ食べ物です。

今年春の旅行計画は、コロナウイルスの影響で延期になり、かなり残念でしたが、何年も前から友達と約束していたオーロラを見に行くことや、スキューバダイビングの復活、南の島でイルカと一緒に泳ぐ計画も着々と進行中です。

ホノルルマラソンにも、いつか出たい。息子が免許を取って大きなバイクを購入したので、一緒にツーリングしたい。

ラグビー観戦も、今年はもう少したくさん行きたい・・・とか。他にも行きたいところ、やりたいことがたくさん在りすぎてうれしい悲鳴です。

去年のお正月から始めたダイエットを兼ねたウエイトトレーニングでしたが、9月の健康診断が終わったらホッとして終わってしまいました。

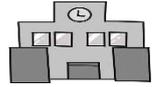
元々はスポーツをするのが大好きなので、暖かくなったらまた何かを始めたいなと思っています。いつまでも元気で旅行や飲み会を楽しむ為にも健康が大切！アクティブなおばあちゃんを目指して頑張ります!!



総務部門 まつい ゆみこ



# ろくちゃんまちをゆく NO.96



こんにちは。久しぶりの記事ですが、今回は学校のバリアフリーについて書かせてもらいます。

防災訓練で感じたことや、大阪府北部地震で小学校に避難した車椅子当事者の方から聞いた「学校のトイレや体育館が使用しづらい」といった意見をもとに、実際に学校ではどのように使用しづらいのか、茨木市内の小学校4校にご協力いただき「茨木の街のバリアフリー化を考える連絡会」を通じてバリアフリー調査をさせてもらいました。



主な内容は、体育館・エレベーター・トイレ・教室について、各種、各教室を車椅子で回り確認させてもらいました。

体育館は、4校のうち3校に車椅子で入ることができました。ただ、出入り口が狭いことや出入り口が1か所のみで、避難所として利用規模が多くなることを想定すると、十分といえないのではないかと思いました。それから、ある1校は体育館が2階にあるため、エレベーターを利用して体育館に行くことになります。北部地震の時には避難される方が少なかったため、体育館の利用をするまではなかった

ため不便を感じなかったようですが、利用規模が多くなると歩行困難な方にとっては利用しづらいと思いました。

エレベーターは4校のうち3校がついていました。未設置の1校は来年度に設置予定とのことです。エレベーターが未設置の学校でも、車椅子当事者の方が通われる時には、エレベーターの設置がされるようです。

エレベーターの設置は上下階への移動に非常に有効です。しかし北部地震の時には、小学校のエレベーターが使えず修理するまで、およそ1か月は使用できなかったようです。

トイレについては多目的トイレが4校ともありました。しかしスペースが狭くて介助者が介助しにくいトイレもありました。また、一般用トイレが和式トイレの学校もあり、洋式トイレが必要な方が多目的トイレに殺到し混雑することが予想され、本来必要とされる方が使えなくなってしまうことが考えられます。

教室については、車椅子当事者の方がいるクラスの教室はバリアフリーになっていました。教室以外の場所すべてがバリアフリーではなかったため、災害時に教室を利用する場合にはどこがバリアフリーであるかなど事前の把握しておかなければ混乱を招いてしまうことが考えられます。

災害時には一次避難所に避難することになっていますが、十分に車椅子の方が利用できる環境と言うには乏しく、第二次避難所への希望が出るのが予想されます。また、公民館などの公共の施設でも避難は可能ですが、学校や公民館など避難所となる場所の状況把握を一体的に行い、どこで、誰が、どのくらい、どのように避難可能であるのかなどを考えないと、避難したくても避難できない事がおこってしまう事があるかと思えます。そうならないように皆さんに働きかけが必要かな、と思いました。



(ろくしょうともあき)  
(六條友聡)

しゃかいふくしほうじん こうえんかい  
社会福祉法人ぽぽんがぼん後援会

# 「つながりの会 ぽぽんがぼん」

あつという間に一年・・・年々時間の過ぎる速さを感じます。



2月2日(日曜日)、つながりの会ぽぽんがぼんの活動の一つである学習会、今回は茨木しょう会(略称)と共同開催で、「道草」の上映会を

障害福祉センター「ハートフル」で開催しました。知的障がいのある方が、重度訪問介護を利用しながら地域で自立生活をされているドキュメント映画です。3、40年ほど前は現在のような福祉サービスもなく、地域で就学することも難しく、多くの方が支援学校(旧:養護学校)や施設での生活を余儀なくさせられていました。

1990年に発足された茨木しょう会の方々は、みんなと一緒に地域であたりまえに生きていきたいとの思いを大切に、地域での教育・生活・労働・権利擁護など現在も活動を続けておられます。上映の前の挨拶で、茨木しょう会とぽぽんがぼん、つながりの会ぽぽんがぼんとの関係について、双方の会の紹介案内も参考に話をさせていただきました。参加者の半分近くの方が会関係者以外だったのも嬉しかったです。

## 映画を見ていただいた方の感想です(一部抜粋)

- ・リアルな介護の現場が観れてよかった。介護をする/されること、そのどちらにも難しさがあり、もっと多くの人に知られるべきであると改めて思われる映画であった。
- ・障がいのある人の24時間を改めて考えました。地域での生活、支援者の存在の中で表情が豊かになり言葉も増えた。会話(対話)、返事が返ってくるのが嬉しい、家族も楽しく元気になっていく「施設よりも地域」があたりまえになるよう動いていきたいです。



- ・当事者の意見、思いを聞きとることの難しさを感じました。
- ・重度の障がいの方が地域で生活することは近隣への理解や、支援者の力量などがそろわないと難しい。
- ・介護者との信頼関係、とても大事だと思いました。

・・・など。

20年ほど前に、作業所の利用者さんのお母さんが亡くなったことをきっかけに、ぽぽんがぼんでは知的障がい者の自立生活に向けての取り組みが始まりました。

私の息子も、大阪府が実施した自活訓練事業で一年間の共同生活を体験後、2000年4月から知的障がいのある先輩仲間3人と一緒に、グループホーム(府営住宅)で暮らしています。息子が帰宅した際には「親亡き後ではなく、親が元気なうちに、ただいまと帰れる家があるように・・・」とってくれたスタッフの言葉がいつも思い出されます。言葉でのコミュニケーションが難しいところがありますが、本人たちの気持ちを大事に寄り添い、視覚的情報も併せて日々の暮らしを支援して頂き、もう20年の暮らしとなります。当初のメンバーのまま変わらない生活に、彼らが積み上げてきた時間の大きさと、世話人さんとの信頼関係、支援の大きさを感ずります。

自立生活には、様々な支援の力が必要です。ぽぽんがぼんや他事業所で、希望される方に添えるような支援者の育成・体制を望むとともに、後援会としても協力していきたいと思っております。(村上和子)

# ご寄付ご協力ありがとうございます！



ご寄付等のお礼 2019年11月27日～2020年2月29日まで（順不同）

※郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は次号にて掲載させていただきます。

## ● 社会福祉法人ぽぽんがぽんへのご寄付ご協力ありがとうございました。

林様 埴淵様 濱田様 鎮山様 長島様 東森様  
大島様 匿名の皆様

ご寄付をご希望される方は、ゆうちょ銀行へお願いします

＜振替用紙を使用する場合＞

口座記号番号：00930-0-212299

口座名称：社会福祉法人ぽぽんがぽん

＜ゆうちょ銀行以外をご利用する場合＞

店名（店番）：099

預金種目：当座

口座番号：0212299

## ● つなかりの会ぽぽんがぽん（後援会）へのご寄付ご協力、ありがとうございました。

【ご寄付頂いた方々】

小野様 藤岡様 村上様 鍋谷様 萩原様 趙様 匿名の皆様

【募金箱のご協力（回収）】※一部9月にご提供いただいた方で掲載に間に合わなかった方を含みます

埴淵様 吉永様 高原様 坂本様 奥野様 シャルドン様 餃子の王将阪急茨木駅前店様  
ファミリーマート舟木町店様 ファミリーマート並木町店様 グループホームピース様  
上映会で募金して下さった方々 匿名の皆様

## ● アルミ缶・バザー用品・牛乳パックご提供ありがとうございました。

【バザー用品】谷田様 谷川様 前田様 東森様、吉田様、芳末様、東様 作業所へ持参して  
下さった皆様 匿名の皆様

【アルミ缶】ハロハロ様 埴淵様 舟橋様 奥原様 浅野様 作業所へ持参して下さった  
皆様

【牛乳パック】関西よつ葉連絡会淀川産地直送センター様 菜の花障害者相談支援センター様 洗様  
作業所へ持参して下さった皆様



ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございました。今後ともよろしくおねがい申し上げます。

アルミ缶・バザー用品は、下記施設でお受け取りさせていただきます。

〒567-0850 大阪府茨木市真砂玉島台 8-20 いばらき自立支援センター「ほかほか」 ☎072-635-5762

〒567-0842 大阪府茨木市五十鈴町 7-29 いばらき自立支援センター「どかどか」 ☎072-637-6882

〒567-0031 大阪府茨木市春日 1-15-22 茨木市立障害者就労支援センター「かしの木園」 ☎072-626-5910

〒567-0888 大阪府茨木市駅前 1-4-14-3F 社会福祉法人ぽぽんがぽん ☎072-623-9202

へん しゅう こう き  
編 集 後 記

この編集後記を書いている現在、3月3日新型コロナウイルスの感染拡大が進み、小学校、中学校、高校、特別支援学校が休校となっている。

ぽぽんがぽんにおいても職員、利用者への予防対応等進めているが、一方でマスクが足りない。

デマからトイレットペーパーまで、なくなっている。

果たしてこの通信が発行されているところには、どうなっているのだろうか。

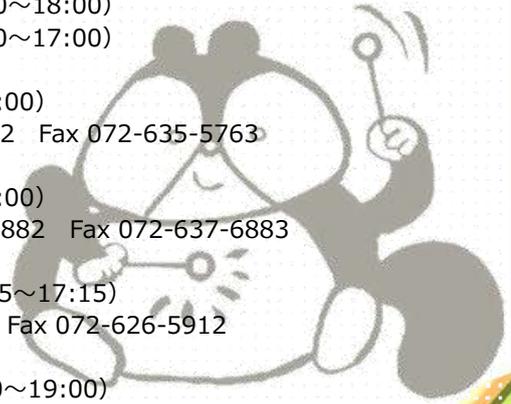
パニックにならずに落ち着いて、取り組まねばとまっているところです。



おおたごろう  
(太田吾郎)

【 社会福祉法人ぽぽんがぽん 各場連絡先 】

- 法人本部、ヘルパー派遣、グループホーム窓口、相談支援、移動送迎  
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F Fax 共通 072-623-9203
- 法人本部 } Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)
- グループホーム窓口 }
- 移動送迎 }
- ヘルパー派遣 Tel 072-623-9205 (9:00~18:00)
- 相談支援 Tel 072-623-9210 (9:00~17:00)
- いばらき自立支援センター「ぼかぼか」 (9:00~17:00)  
〒567-0850 茨木市真砂玉島台 8-20 Tel 072-635-5762 Fax 072-635-5763
- いばらき自立支援センター「どかどか」 (9:00~17:00)  
〒567-0842 茨木市五十鈴町 7-29-1FS Tel 072-637-6882 Fax 072-637-6883
- 茨木市立障害者就労支援センター かしの木園 (8:45~17:15)  
〒567-0031 茨木市春日 1-15-22 Tel 072-626-5910 Fax 072-626-5912
- 茨木市子ども・若者自立支援センターくろす (10:00~19:00)  
〒567-0842 茨木市片桐町 4-7 Tel 080-2467-5566
- ユースプラザ center エント (10:00~19:00)  
〒567-0882 大阪府茨木市元町 4-7 ローズ WAM2 階 事務室 Tel 080-1521-4624



へんしゅうにん しやうがいしや せいかつ ぼ  
編集人：「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」 TEL (072) 623-9202 (お問い合わせはこちらまで)

〒567-0888 茨木市駅前1-4-14 エステート茨木駅前3F 社会福祉法人ぽぽんがぽん (法人本部)

はっこうにん かんさいしやうがいしやてい いかんこうぶつきやうかい  
発行人：関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2東興ビル4F

ていか えん  
定価：50円